

立教大学学術推進特別重点資金（立教SFR）
個人研究費
2010年度研究成果報告書

| | | |
|--------------|-----------------------------------|---------|
| 研究代表者 | 所属・職名 | 氏名 |
| | 文学部文学科日本文学専修・助教 | 水口 幹記 印 |
| 研究課題 | 古代東アジアにおける海域信仰と習俗の研究—祈雨儀礼と占いを中心に— | |
| 研究期間 | 2010年度 | |
| 研究経費 | 500千円 | |

研究の概要（200～300字で記入、図・グラフは使用しないこと）

本研究は、東アジア地域、特に沿岸地域・海域における信仰や習俗を対象としたものである。東アジア海域という地域性から、日本のみならず、朝鮮半島諸国や中国、さらには、インド地域までの歴史的・文学的・文化的事象が対象となる。

特に、本研究では古代東アジア地域における有力な貿易港であった寧波付近の舟山群島を中心とした海域信仰（観音信仰など）を中心対象としており、かつまた、そうした海域信仰に強い影響を与えていたり、強い関連性があると考えられる周辺地域における信仰状況や習俗（具体的には、中国江南地域や朝鮮半島における祈雨儀礼・仏教儀礼など）、更には祈禱と関連する占術をめぐる状況を扱っていく。

キーワード（研究内容をよく表しているものを3項目以内で記入。）

[古代東アジア] [祈雨] [占い]

研究成果の概要 (図・グラフ等は使用しないこと。)

本研究課題の成果は、以下の5点となる。

1) 論文の発表・寄稿

- ① 「日本呪符の系譜—天地瑞祥志・道蔵・日用類書—」(武田時昌編『陰陽五行のサイエンス 思想編』(京都大学人文科学研究所、2011年2年)。
- ② 「〈成尋伝〉への可能性」(藤巻和宏編『語られる縁起—聖地と聖人の東西』(勉誠出版、2011年刊行予定)。
- ③ 「北宋的仏教祈雨作法—以日本僧人成尋的祈雨為線索」(中外関係史学会編『「新視野下的中外関係研究」学術研究会論文集』、新疆人民出版社、2011年刊行予定)。
- ④ 「祈雨与観音信仰—対『墨莊漫録』所載的普陀山祈雨背景之探索」(王勇・蒋宝華主編『東亜観音信仰国際研究会論文集(仮題)』、出版社未定、2011年刊行予定)。

以上の4本の関連論文を執筆し、公表・寄稿した。①は、中近世呪符に関わる論考で、先に発表した論文「僧円能作成の厭符と彰子・敦成親王・道長への呪詛—日本古代呪符の系譜—」、倉田実編『王朝人の婚姻と信仰』、森話社、2010年5月)とあわせ、日本前近代の呪符に関してある程度の見通しを提示できたのは大きな成果である。②～④は、全て祈雨に関する論考で、日本の祈雨事例のみならず、中国の事例を丹念に追うことができ、地域の特異性にも触れ得たことはやはり成果として大きい。

なお、残念ながら、現在の所、①のみが刊行されており、②は校正が終了している段階である。また、②では、拙稿を含む「第二章 聖人伝の生成と展開」の総説を担当執筆している(こちらも校正済み)。③④は中国語で書かれた論文であるが、刊行の詳細は、現在未定とのことである。

2) 学会・研究会等での口頭報告

①学会報告

- 1, 「〈ブックロード〉を点検する—東アジアにおける書籍と文化の交流をめぐって—」、立教大学日本文学会大会; 東京(立教大学); 2010年7月
 - 2, 「若杉家本『祭文部類・付天社神道』所載呪符の典拠」、国際シンポジウム「漢字文化遡源—文字から書籍へ—»; 鄭州(中国: 鄭州大学); 2010年9月
 - 3, 「東アジアの漢文学と〈予言文学〉」、国際シンポジウム「東アジアの日本文学とベトナム—今昔物語集の翻訳と〈予言文学〉を中心に—»; ハノイ(ベトナム: ベトナム国立社会科学院・漢喃研究所); 2010年11月
 - 4, 「類書編纂と祥瑞—『稽瑞』の成立年代をめぐって—」、東アジア恠異学会特別企画「東アジアの文化流通をめぐって—»; 大阪(関西学院大学); 2011年3月
- 1・4は国内学会、2・3は国際学会での報告である。

②研究会報告

- 1, 「日本呪符の系譜—天地瑞祥志・まじない書・道蔵—」、立教大学日本学研究所第39回例会; 東京(立教大学); 2010年5月
- この報告は、上記した執筆論文①の成果につながった。

③講演

- 1, 「奈良時代における唐文化の伝来・抵抗・受容」、(財)黒川古文化研究所・西宮市教育委員会; 兵庫(西宮市立勤労会館ホール); 2010年8月

本講演は招待講演であり、直接本課題から費用を捻出したわけではないが、本課題に関連する内容であり、また、本課題を専門家以外の一般の方々に聞いていただく機会を得たのは、成果として大きいと考える。

研究成果の概要 (つづき)

3) 外国語論文の翻訳

① 中国語→日本語

1, 趙益「古代占星記録『赤方気』の文献学的考察」(『立教大学大学院日本文学論叢』10、立教大学大学院、2010年8月、pp267-275)

『古典術数文献述論稿』(中華書局、2005年)の専著を持つ南京大学教授の趙益氏の最新論文を翻訳させていただき、日本で発表できたことは、関連研究にとって益が大きい。また、本課題計画には入れていなかったが、日本でも著書が出版されている(たとえば、『東アジアの儒学』、ペリかん社、2010年)台湾大学教授の黄俊傑氏の論文「中日文化交流史に見られる「自我」と「他者」—相互作用の四種の類型とその含意—」(王敏編『転換期日中関係論の最前線』、三和書籍、2011年3月)を公表できたことは、広い意味での文化交流史にとって有益であると考えられる。

② 韓国語→日本語

近年、韓国で発見された呪符木簡の最新論文、キム・ジェホン氏(国立中央博物館)の「昌寧・火旺山城の貯水池出土木簡と祈雨祭」を、早稲田大学の大学院留学生鄭淳一氏に翻訳していただいた。あわせて専門知識も教示してもらい、今後、本木簡に関する論文を執筆するうえで大変有益であった。

4) 資料調査

今年度は、日本国内で刊行されている書物(日本・中国に関連する資料)を中心に、関連項目「呪符」「祈雨」「占い」「断手」「髪」に関する資料調査を行った。また、国立公文書館を中心に関連書籍の調査を行った。その結果、上掲論文①や学会報告2に関連して、中国明代に刊行が盛んになった日用類書類の中に、日本近世の陰陽道関係資料に見られる呪符との関連が見いだせた。また、ハノイの漢喃研究所での調査でも同様の結果が得られ、東アジア全域で呪符を考察する必要があることに気づかされたのは、大きな発見であった。

5) 海外の研究者との意見交換

2010年9月に中国鄭州で行われた国際シンポジウムと、同年11月に中国杭州で行われた国際シンポジウム(報告なし。参加のみ)に参加した際に、当地の関連研究者と意見交換を行った。そのうち二名の研究者から、研究協力者となっていただく承諾を得て、現在、文部科学省の科学研究費「基盤研究(C)」に応募中である。

研究発表 (研究によって得られた研究経過・成果を発表した①～④について、該当するものを記入してください。該当するものが多い場合は主要なものを抜粋してください。)

- ①雑誌論文 (著者名、論文標題、雑誌名、巻号、発行年、ページ)
- ②図書 (著者名、出版社、書名、発行年、総ページ数)
- ③シンポジウム・公開講演会等の開催 (会名、開催日、開催場所)
- ④その他 (学会発表、研究報告書の印刷等)

① (実際に現時点までに刊行されたものだけを挙げる)

「日本呪符の系譜—天地瑞祥志・道蔵・日用類書—」(武田時昌編『陰陽五行のサイエンス思想編』(京都大学人文科学研究所、2011年2年、245—258頁))

④

(1) 学会報告

- 1, 「〈ブックロード〉を点検する—東アジアにおける書籍と文化の交流をめぐって—」、立教大学日本文学会大会；東京(立教大学)；2010年7月
- 2, 「若杉家本『祭文部類・付天社神道』所載呪符の典拠」、国際シンポジウム「漢字文化遡源—文字から書籍へ—」；鄭州(中国：鄭州大学)；2010年9月
- 3, 「東アジアの漢文学と〈予言文学〉」、国際シンポジウム「東アジアの日本文学とベトナム—今昔物語集の翻訳と〈予言文学〉を中心に」；ハノイ(ベトナム：ベトナム国立社会科学院・漢喃研究所)；2010年11月
- 4, 「類書編纂と祥瑞—『稽瑞』の成立年代をめぐって—」、東アジア恠異学会特別企画「東アジアの文化流通をめぐって」；大阪(関西学院大学)；2011年3月

(2) 研究会報告

- 1, 「日本呪符の系譜—天地瑞祥志・まじない書・道蔵—」、立教大学日本学研究所第39回例会；東京(立教大学)；2010年5月

(3) 講演

- 1, 「奈良時代における唐文化の伝来・抵抗・受容」、(財)黒川古文化研究所・西宮市教育委員会；兵庫(西宮市立勤労会館ホール)；2010年8月